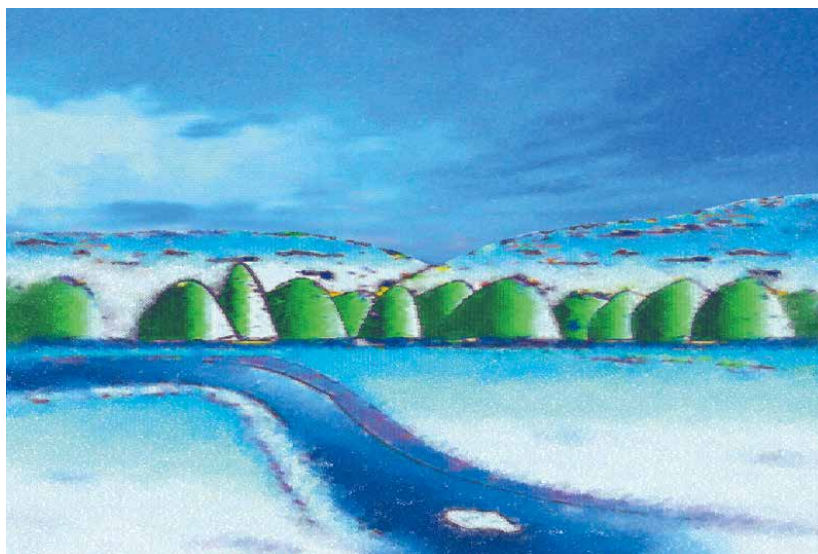


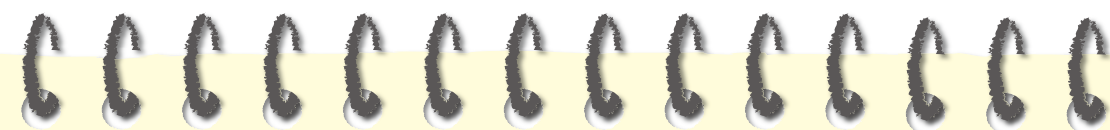


私は9歳でDMD（デュシェンヌ型筋ジストロフィー）と宣告され、今現在は寝たきりで人工呼吸器を使用し、趣味等はパソコンで楽しんでいます。作品は手での操作は困難なために作業療法で紹介された「ワンキーマウス」+「タッチセンサー」+「環境制御装置」にて、口唇の動きでパソコン操作をします。今回はOTから、日ごろの活動の



成果発表の一つとして『作業療法ジャーナル』の表紙に応募しないかと言われて応募した次第です。

私は創作することが大好きで、いろんなことに興味をもって日常を過ごしています。一つの操作で絵を描くことのできるソフトがないようで、複数のソフトの操作できる部分を探して、数年でようやくあのくらいの絵が描けるようになりました。苦勞した点は集中力を保ちながら自分が満足できるまでやり直したことでしょうか。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



川嶋恒夫「羊（オオツノヒツジ）」

2011年1月末、私は脳梗塞で倒れました。右手足の麻痺と失語症の後遺症が残りました。

リハ専門病院へ転院し、つらいリハの日々でしたが、少しずつ自分でできることが増え、4カ月後の退院時には杖で歩けるまでになりました。

今は車で外出もし、東日本橋のデイサービス(ガラパゴス)で絵を描くことに出会いました。絵ができたときの嬉しさは格別です。

この「羊(オオツノヒツジ)」は、左手でスケッチブックを回転させながら角の部分を描き、顔はキリッと目元には優しさがある作品に仕上がったと思います。